

平成 20 年 7 月 30 日

第 112 回 県内企業・業況調査結果

株式会社 鹿 児 島 銀 行

株式会社 鹿児島地域経済研究所

[調査要領]

対象期間	平成 20 年 4 ~ 6 月期実績見込み 平成 20 年 7 ~ 9 月期見通し
調査時点	平成 20 年 6 月下旬
対象企業	県内主要企業 509 社
回答状況	回答企業 353 社、回答率 69.4%
特別質問項目	平成 20 年夏のボーナス支給計画について NHK 大河ドラマ「篤姫」の影響について

用 語 今 期 = 平成 20 年 4 ~ 6 月期 来 期 = 平成 20 年 7 ~ 9 月期

前 期 = 平成 20 年 1 ~ 3 月期 前年同期 = 平成 19 年 4 ~ 6 月期

予 想 = 前期調査時の今期見通し

D.I. = 「良い」 - 「悪い」、「増加」 - 「減少」、いずれも回答企業割合

1. 今期の業況 ~ 悪化

今期の業況 D.I.は▲46 と、前年同期(32)、前期(34)、予想(39)いずれをも下回り、業況感は悪化した。これは、調査開始(昭和 55 年 7 ~ 9 月期)以来、最低となった平成 10 年 7 ~ 9 月期(47)とほぼ並ぶ水準となる。項目別にみると、売上・完工高(前期▲24→今期▲27)、損益(同▲29→▲33)および資金繰り(同▲18→▲20)いずれも前期を下回った。

また、今期は、仕入価格 D.I.(69)が調査開始以来、最高だった前期(59)を 10 ポイント上回り、過去最高を更新。また、**経営上の問題点**でも、「原材料・仕入品価格高」が 59%と、初めて首位となった。一方、販売価格 D.I.(同 0 12)も、2期前の平成 19 年 10 ~ 12 月期に、同 3 年 10 ~ 12 月期以来のプラスに転じたが、今期は大幅に上昇し、仕入価格上昇分を価格へ転嫁する動きが進み始めている。

業況 D.I.を産業別にみても、全産業で悪化した(製造業(同 26 45)、建設業(同 49 66)、卸売業(同 32 42)、小売業(同 52 63)、その他産業(同 26 29))。

2. 来期の業況見通し ~ やや改善

来期の業況見通し D.I.は▲43と、今期(▲46)からはやや改善するものの、依然低い水準が続く見通し。項目別にみると、売上・完工高(今期▲27→来期▲26)はほぼ横ばいながら、損益(同▲33→▲36)、資金繰り(同▲20→▲22)はいずれもやや悪化する見込み。

業況見通し D.I.を産業別にみると、製造業(同▲45→▲34)、小売業(同▲63→▲56)は改善、卸売業(同▲42→▲42)、その他産業(同▲29→▲28)は横ばいながら、建設業(同▲66→▲80)は後退する見通しとなっている。

3. 設備投資 ~ 前期を下回る

今期設備投資を実施した企業割合は38%と、前期(40%)とほぼ同水準を維持した。

投資内容別にみると、「設備機械等の更新、維持」(67%)が最も多く、以下、「生産・販売能力増強」(36%)、「省力化、合理化、省エネ」(20%)の順で、上位3項目の順位に変化はない。

来期に設備投資を予定している企業割合は35%と、今期を下回る見通し。

4. 経営上の問題点

経営上の問題点としては、「原材料・仕入品価格高」(59%)が調査開始以来、初めてトップとなった。次いで「競争激化」(50%)、「売上・受注不振」(47%)が続き、以下、「採算・収益の悪化」(28%)、「販売価格転嫁難」、「人件費等経費高」(共に21%)の順となっている。

5. 平成20年夏のボーナス支給計画について

平成20年夏のボーナス支給計画については、回答企業のうち、「支給する」が84%、「未定」が11%、「今夏は支給しない」が5%となった。「支給する」割合は、昭和58年の本調査開始以来最低だった前年と比べ3ポイント上昇したものの、支給しない企業割合も2ポイント上昇した。

支給時期は、例年同様7月(52%)が最も多く、以下、8月(29%)、6月(19%)の順。支給率をみると、前年同様「月給支給額の1か月分超 1.5 か月分以下」が35%と最も多いが、「1か月分以下」(27%)が前年より10ポイント上昇して2位となり、以下、「1.5 か月分超 2か月分以下」(23%)、「2か月分超」(15%)の順となった。

一人当りの支給額についてみると、「増える」と回答した企業割合が19%と前年(22%)を下回り、「減る」とする企業割合は27%と前年(20%)を上回った。また、「増える」とする企業の支給増加率をみると、「1~3%未満」が53%と最も多く、次いで「3~5%未満」(15%)、以下「5~10%未満」

「10%以上」(共に 11%)、「1%未満」(10%)となった。増加要因としては、「社員の意欲向上」(61%)と「業績が向上」(41%)が高い割合を占めた。

一方、一人当りの支給額が「減る」とした企業の支給減少率をみると、「10%以上」が 40%と最も多く、以下、「5～10%未満」(23%)、「1～3%未満」(18%)、「3～5%未満」(16%)、「1%未満」(3%)の順となった。減少要因としては、「業績が悪化」が81%と8割を超え、これに「経営体質強化に向けた人件費圧縮」(28%)が続いている。

6. NHK 大河ドラマ「篤姫」の影響について

NHK 大河ドラマ「篤姫」の影響については、企業各社に与える影響は「なし」と回答した企業割合が 85%と 8 割を超え、「プラス」または「ややプラス」と回答した企業は 15%に止まった。影響(プラス+ややプラス)の内容については、「売上」(60%)が最も多く、「広告宣伝」(26%)、「新商品やサービス開発」(22%)の順となった。

放映に対する対策については、「実施しない」企業が 85%を占めた。「実施した」企業(14%)の対策内容をみると、「販促の強化」(56%)、「新商品やサービスの投入」(44%)の割合が大きく、「社員教育の強化」(15%)が続いている。

以上

【本件に関するお問い合わせ】

(株)鹿児島地域経済研究所 (099-225-7491)

第 112 回 県内 企業 ・ 業 況 調 査 結 果 集 計 表

単位：%

四 半 期 別 状 況 項 目	平成20年 1 ~ 3 月 期				平成20年 4 ~ 6 月 期					平成20年 7 ~ 9 月 期			
	前期 実績				今期 実績					来期 見通し			
	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D . I . (A) - (C)	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D . I . (A) - (C)	前 回 調 査 時 今 期 見 通 し	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D . I . (A) - (C)
	(A)	(B)	(C)	(A) - (C)	(A)	(B)	(C)	(A) - (C)	(A) - (C)	(A)	(B)	(C)	(A) - (C)
自 社 の 業 況	9	48	43	34	5	44	51	46	(39)	6	45	49	43
製 造 業	12	50	38	26	5	45	50	45	(32)	8	50	42	34
建 設 業	7	37	56	49	2	30	68	66	(69)	0	20	80	80
卸 売 業	10	48	42	32	4	50	46	42	(35)	0	58	42	42
小 売 業	4	40	56	52	2	33	65	63	(40)	5	34	61	56
その他産業	9	56	35	26	9	53	38	29	(30)	10	52	38	28
生 産 高(製造業)	14	58	28	14	15	50	35	20	(13)	10	62	28	18
売 上 ・ 完 工 高	17	42	41	24	17	39	44	27	(22)	13	48	39	26
製 造 業	21	48	31	10	20	45	35	15	(7)	15	57	28	13
建 設 業	18	32	50	32	11	29	60	49	(70)	2	27	71	69
卸 売 業	12	56	32	20	20	33	47	27	(10)	9	52	39	30
小 売 業	11	33	56	45	16	24	60	44	(28)	18	31	51	33
その他産業	16	41	43	27	15	48	37	22	(16)	15	55	30	15
製 品 ・ 商 品 在 庫 (適正水準比)	過剰 14	適正 77	不足 9	5	過剰 16	適正 73	不足 11	5					
販 売 価 格	上昇 20	横ばい 60	低下 20	0	上昇 31	横ばい 50	低下 19	12	(4)	上昇 31	横ばい 52	低下 17	14
仕 入 価 格	上昇 62	横ばい 35	低下 3	59	上昇 71	横ばい 27	低下 2	69	(60)	上昇 72	横ばい 26	低下 2	70
損 益	好転 13	横ばい 45	悪化 42	29	好転 12	横ばい 43	悪化 45	33	(31)	好転 8	横ばい 48	悪化 44	36
製 造 業	14	47	39	25	10	47	43	33	(29)	8	49	43	35
建 設 業	13	38	49	36	7	35	58	51	(60)	4	40	56	52
卸 売 業	10	51	39	29	18	52	30	12	(25)	5	58	37	32
小 売 業	11	38	51	40	9	32	59	50	(30)	5	38	57	52
その他産業	15	47	38	23	14	46	40	26	(22)	13	52	35	22
資 金 繰 り	楽 5	普通 72	窮屈 23	18	楽 6	普通 68	窮屈 26	20	(19)	楽 5	普通 68	窮屈 27	22
製 造 業	6	74	20	14	7	70	23	16	(13)	6	69	25	19
建 設 業	4	69	27	23	4	67	29	25	(24)	2	65	33	31
卸 売 業	7	78	15	8	0	78	22	22	(12)	0	78	22	22
小 売 業	6	63	31	25	5	56	39	34	(30)	6	58	36	30
その他産業	5	73	22	17	9	68	23	14	(17)	8	70	22	14

第112回 企業業況アンケート調査

回答率

単位：%

	対象企業	回答企業	回答率
製造業	146	112	76.7
食料品	65	49	75.4
繊維	10	7	70.0
木材	6	2	33.3
紙・パルプ	3	3	100.0
窯業・土石	15	11	73.3
機械・金属	19	15	78.9
電機・電子	19	17	89.5
その他	9	8	88.9
非製造業計	363	241	66.4
建設業	65	45	69.2
土木	22	17	77.3
建築	14	9	64.3
総合建設	14	10	71.4
その他	15	9	60.0
卸売業	65	46	70.8
食料品	31	23	74.2
建設資材	11	9	81.8
衣料品	2	1	50.0
家電製品	6	3	50.0
その他	15	10	66.7
小売業	112	57	50.9
百貨店・スーパー	20	12	60.0
衣料品	9	4	44.4
自動車	16	6	37.5
家電製品	8	2	25.0
石油	12	8	66.7
その他	38	21	55.3
外食産業	9	4	44.4
その他	121	93	76.9
旅館・ホテル	21	16	76.2
運輸	33	23	69.7
サービス	60	48	80.0
農林水産	7	6	85.7
合計(製造+非製造)	509	353	69.4

業況D . I . の推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10~12	月期	44	38	34	65	66	25
10年	1~3	"	44	48	8	54	57	49
	4~6	"	44	45	54	50	42	33
	7~9	"	47	53	46	55	46	38
	10~12	"	28	22	15	39	40	23
11年	1~3	"	24	30	1	30	31	17
	4~6	"	31	26	17	34	41	37
	7~9	"	31	28	30	43	37	20
	10~12	"	11	1	11	8	40	5
12年	1~3	"	11	5	4	18	24	8
	4~6	"	23	14	37	50	13	24
	7~9	"	23	15	35	31	25	21
	10~12	"	13	6	4	15	28	17
13年	1~3	"	22	27	2	18	35	18
	4~6	"	39	42	42	29	41	33
	7~9	"	41	51	30	43	39	28
	10~12	"	34	23	32	30	56	29
14年	1~3	"	34	31	44	37	36	28
	4~6	"	30	18	60	31	34	21
	7~9	"	30	13	52	31	44	24
	10~12	"	18	6	29	22	42	19
15年	1~3	"	25	13	29	19	41	28
	4~6	"	35	16	58	25	58	29
	7~9	"	24	7	48	29	34	25
	10~12	"	17	7	33	33	42	15
16年	1~3	"	12	5	35	8	23	11
	4~6	"	23	2	61	25	43	12
	7~9	"	21	8	37	27	36	14
	10~12	"	7	11	23	6	29	8
17年	1~3	"	24	16	31	17	33	31
	4~6	"	26	17	60	18	24	26
	7~9	"	27	23	40	23	28	25
	10~12	"	18	2	28	8	29	25
18年	1~3	"	22	19	23	14	36	18
	4~6	"	25	17	42	17	32	22
	7~9	"	32	31	33	25	43	28
	10~12	"	27	24	33	30	54	11
19年	1~3	"	24	19	27	35	52	5
	4~6	"	32	31	33	38	44	19
	7~9	"	38	45	31	41	51	19
	10~12	"	33	32	49	22	54	19
20年	1~3	"	34	26	49	32	52	26
	4~6	"	46	45	66	42	63	29
	7~9	月期見通し	43	34	80	42	56	28

(注) D . I . = 「良い」 - 「悪い」

売上・完工高D . I . の推移（前年比）

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10～12	月期	41	40	37	63	46	26
10年	1～3	"	53	55	31	65	57	53
	4～6	"	35	35	45	46	26	29
	7～9	"	35	44	44	29	27	27
	10～12	"	28	20	23	35	26	38
11年	1～3	"	18	21	4	17	23	17
	4～6	"	16	8	39	13	12	15
	7～9	"	14	10	15	32	24	0
	10～12	"	6	0	30	7	8	10
12年	1～3	"	3	2	17	7	0	2
	4～6	"	12	10	42	28	8	7
	7～9	"	13	8	36	11	4	16
	10～12	"	17	16	28	20	11	16
13年	1～3	"	12	20	9	12	5	24
	4～6	"	30	37	28	19	28	29
	7～9	"	39	50	40	38	43	17
	10～12	"	29	23	30	39	26	38
14年	1～3	"	30	33	33	38	24	22
	4～6	"	26	15	56	32	21	21
	7～9	"	18	7	46	25	20	22
	10～12	"	18	2	25	14	26	33
15年	1～3	"	21	8	50	10	15	36
	4～6	"	23	5	45	7	44	26
	7～9	"	13	0	35	17	18	14
	10～12	"	17	1	34	25	21	26
16年	1～3	"	3	30	43	4	14	10
	4～6	"	10	7	39	10	28	1
	7～9	"	9	2	39	17	24	6
	10～12	"	3	12	31	10	14	12
17年	1～3	"	21	22	41	7	18	19
	4～6	"	12	9	43	7	7	20
	7～9	"	17	21	40	13	3	12
	10～12	"	12	12	30	9	5	16
18年	1～3	"	13	18	31	16	6	3
	4～6	"	15	17	33	15	11	8
	7～9	"	18	22	11	25	17	11
	10～12	"	20	18	28	33	30	7
19年	1～3	"	13	18	9	31	17	8
	4～6	"	22	20	36	29	23	15
	7～9	"	27	31	34	35	28	14
	10～12	"	23	8	45	22	50	13
20年	1～3	"	24	10	32	20	45	27
	4～6	"	27	15	49	27	44	22
	7～9	月期見通し	26	13	69	30	33	15

(注) D . I . = 「増加」 - 「減少」

損益（前年比）D . I . の推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10~12	月期	34	32	36	43	46	19
10年	1~3	"	43	42	22	48	50	49
	4~6	"	27	35	39	25	17	18
	7~9	"	21	26	37	17	13	14
	10~12	"	16	13	19	15	14	20
11年	1~3	"	8	15	0	9	6	5
	4~6	"	3	3	20	14	1	6
	7~9	"	9	4	22	21	5	4
	10~12	"	4	4	13	4	11	4
12年	1~3	"	2	3	16	5	1	0
	4~6	"	9	1	34	24	11	21
	7~9	"	8	4	18	2	2	18
	10~12	"	13	9	27	6	8	19
13年	1~3	"	11	15	0	5	11	18
	4~6	"	22	39	23	17	0	15
	7~9	"	29	41	29	23	30	17
	10~12	"	29	26	44	27	39	14
14年	1~3	"	21	22	40	15	16	17
	4~6	"	13	0	42	19	8	9
	7~9	"	7	8	33	12	3	12
	10~12	"	11	7	19	16	20	19
15年	1~3	"	12	1	29	17	3	18
	4~6	"	13	2	25	19	16	13
	7~9	"	10	3	25	20	14	13
	10~12	"	11	4	30	18	13	15
16年	1~3	"	1	16	31	2	7	2
	4~6	"	9	2	45	12	13	3
	7~9	"	7	6	35	9	10	2
	10~12	"	5	2	28	6	5	13
17年	1~3	"	18	11	41	0	20	26
	4~6	"	12	7	42	2	0	20
	7~9	"	16	17	33	15	4	14
	10~12	"	13	11	30	5	9	17
18年	1~3	"	23	22	36	22	19	20
	4~6	"	22	21	25	9	35	17
	7~9	"	28	36	24	14	40	22
	10~12	"	23	16	32	19	42	19
19年	1~3	"	19	12	32	35	30	3
	4~6	"	18	16	18	30	23	13
	7~9	"	24	29	27	25	28	13
	10~12	"	31	31	38	21	58	13
20年	1~3	"	29	25	36	29	40	23
	4~6	"	33	33	51	12	50	26
	7~9	月期見通し	36	35	52	32	52	22

(注) D . I . = 「好転」 - 「悪化」

資金繰りD . I . の推移

			全 産 業	製 造 業	建 設 業	卸 売 業	小 売 業	その他産業
9年	10~12	月期	21	22	10	14	28	23
10年	1~3	"	16	14	2	17	23	23
	4~6	"	11	13	0	4	23	12
	7~9	"	19	24	7	20	15	22
	10~12	"	15	7	2	16	22	26
11年	1~3	"	10	7	2	9	15	15
	4~6	"	3	2	12	2	9	13
	7~9	"	11	13	1	18	12	13
	10~12	"	8	3	4	9	19	14
12年	1~3	"	4	1	9	8	9	13
	4~6	"	0	4	13	6	6	15
	7~9	"	13	9	2	4	17	26
	10~12	"	11	9	2	5	8	26
13年	1~3	"	6	4	6	6	8	19
	4~6	"	11	16	6	5	12	22
	7~9	"	13	19	7	0	14	20
	10~12	"	16	12	14	11	22	24
14年	1~3	"	12	9	10	11	10	24
	4~6	"	6	2	7	4	6	12
	7~9	"	12	5	17	12	13	17
	10~12	"	10	4	2	15	19	22
15年	1~3	"	6	14	11	13	13	13
	4~6	"	5	4	8	17	17	23
	7~9	"	7	1	6	4	15	17
	10~12	"	9	1	17	4	17	19
16年	1~3	"	8	5	17	4	19	7
	4~6	"	3	8	5	2	20	8
	7~9	"	5	4	14	2	13	8
	10~12	"	3	1	0	3	13	4
17年	1~3	"	6	4	11	0	15	14
	4~6	"	5	0	8	5	13	14
	7~9	"	12	15	10	4	16	10
	10~12	"	12	10	9	7	20	17
18年	1~3	"	9	11	5	5	26	6
	4~6	"	7	5	2	2	17	7
	7~9	"	11	11	4	0	24	13
	10~12	"	13	9	13	0	28	13
19年	1~3	"	11	14	6	0	28	4
	4~6	"	7	6	4	7	24	8
	7~9	"	13	13	5	14	24	11
	10~12	"	16	12	19	5	35	9
20年	1~3	"	18	14	23	8	25	17
	4~6	"	20	16	25	22	34	14
	7~9	月期見通し	22	19	31	22	30	14

(注) D . I . = 「楽」 - 「窮屈」

第112回

業況D.I.

	19年4～6月期	20年1～3月期	20年4～6月期		20年7～9月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	32	34	39	46	43
製 造 業	31	26	32	45	34
食 料 品	20	17	26	29	25
織 維	89	50	38	57	43
木 材	67	50	50	50	50
紙・パルプ	50	0	0	33	33
窯業・土石	55	18	73	82	64
機械・金属	0	40	30	53	27
電機・電子	25	31	39	37	31
そ の 他	25	60	0	75	50
建 設 業	33	49	69	66	80
土 木	40	59	71	65	82
建 築	22	56	78	89	100
総合建設	40	38	75	67	78
そ の 他	27	36	55	44	56
卸 売 業	38	32	35	42	42
食 料 品	44	24	29	31	27
建設資材	40	56	56	45	67
そ の 他	15	25	25	50	40
小 売 業	44	52	40	63	56
百貨店・スーパー	56	73	64	75	75
衣 料 品	100	80	80	100	100
自 動 車	56	14	0	50	33
家電製品	0	0	0	0	50
石 油	16	50	0	75	75
そ の 他	30	59	45	52	42
そ の 他	19	26	30	29	28
旅館・ホテル	0	6	13	0	26
運 輸	22	38	33	24	28
サ ー ビ ス	27	33	46	40	44

第112回

売上・完工高D.I.

	19年4～6月期	20年1～3月期	20年4～6月期		20年7～9月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	22	24	22	27	26
製 造 業	20	10	7	15	13
食 料 品	6	7	9	13	2
織 維	100	50	38	57	43
木 材	67	50	0	50	50
紙・パルプ	50	50	50	0	0
窯業・土石	28	9	36	55	46
機械・金属	10	20	20	20	20
電機・電子	0	17	25	23	11
そ の 他	25	60	20	50	14
建 設 業	36	32	70	49	69
土 木	53	38	81	65	77
建 築	0	45	44	34	67
総合建設	40	25	100	50	70
そ の 他	36	18	55	33	56
卸 売 業	29	20	10	27	30
食 料 品	39	5	0	9	14
建設資材	0	45	0	0	45
そ の 他	29	38	38	60	40
小 売 業	23	45	28	44	33
百貨店・スーパー	44	60	40	59	59
衣 料 品	100	80	80	75	100
自 動 車	44	29	0	50	33
家電製品	100	0	33	0	50
石 油	0	0	33	12	0
そ の 他	10	44	26	48	24
そ の 他	15	27	16	22	15
旅館・ホテル	15	0	25	0	33
運 輸	11	14	5	23	14
サ ー ビ ス	27	46	37	34	39

第112回

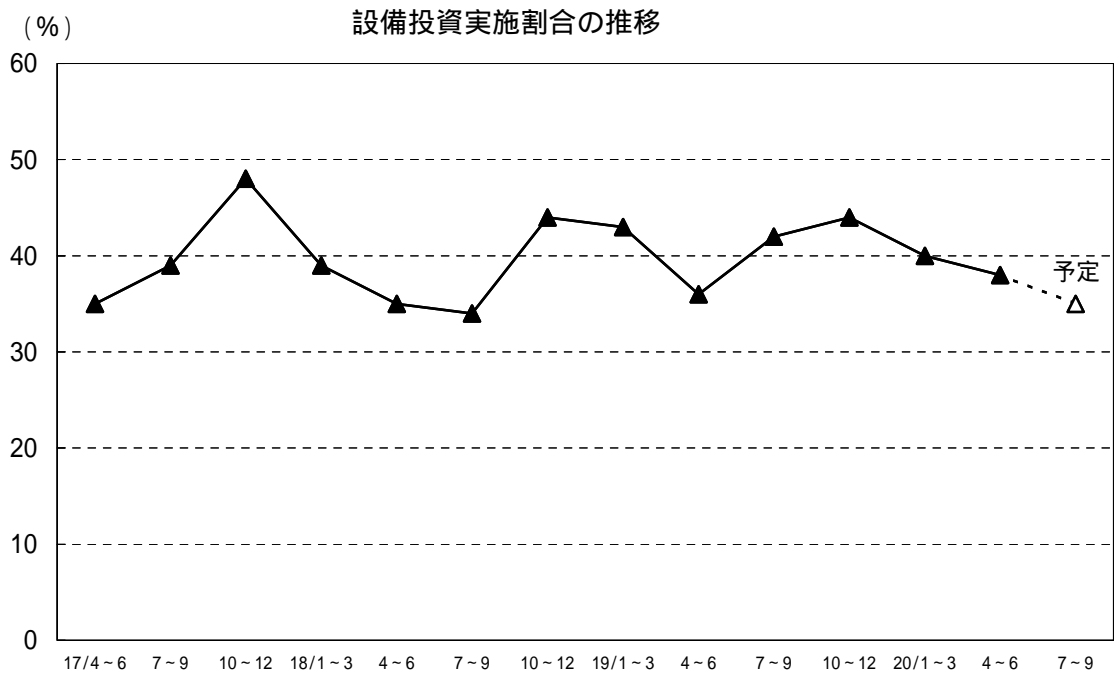
損益D.I.(前年比)

	19年4～6月期	20年1～3月期	20年4～6月期		20年7～9月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	18	29	31	33	36
製 造 業	16	25	29	33	35
食 料 品	14	17	26	25	34
織 維	78	38	38	29	43
木 材	67	50	0	50	50
紙・パルプ	100	50	50	0	33
窯業・土石	27	18	73	60	60
機械・金属	0	40	10	40	27
電機・電子	8	31	23	29	17
そ の 他	0	80	40	50	50
建 設 業	18	36	60	51	52
土 木	27	24	59	53	53
建 築	22	56	44	56	67
総合建設	10	38	75	50	40
そ の 他	9	36	64	45	45
卸 売 業	30	29	25	12	32
食 料 品	31	10	14	4	19
建設資材	30	67	22	0	38
そ の 他	100	38	50	10	40
小 売 業	23	40	30	50	52
百貨店・スーパー	11	70	60	82	82
衣 料 品	0	60	60	100	100
自 動 車	44	14	14	0	0
家電製品	0	0	33	50	50
石 油	16	25	0	37	63
そ の 他	32	39	35	43	38
そ の 他	13	23	22	26	22
旅館・ホテル	16	6	7	6	13
運 輸	11	41	27	17	35
サ ー ビ ス	26	18	27	36	29

第112回

資金繰りD.I.

	19年4～6月期	20年1～3月期	20年4～6月期		20年7～9月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	7	18	19	20	22
製 造 業	6	14	13	16	19
食 料 品	4	7	2	12	14
織 維	34	50	38	43	43
木 材	33	0	0	0	0
紙・パルプ	0	0	0	0	0
窯業・土石	9	9	36	46	60
機械・金属	18	20	30	7	7
電機・電子	0	15	15	13	13
そ の 他	0	40	20	12	12
建 設 業	4	23	24	25	31
土 木	7	24	24	29	35
建 築	38	22	0	11	33
総合建設	20	25	25	30	30
そ の 他	18	18	45	22	22
卸 売 業	7	8	12	22	22
食 料 品	4	10	5	13	9
建設資材	0	22	22	33	33
そ の 他	14	25	38	20	30
小 売 業	24	25	30	34	30
百貨店・スーパー	22	20	30	27	27
衣 料 品	60	80	80	100	100
自 動 車	22	14	0	0	0
家電製品	50	0	0	0	0
石 油	17	0	0	50	43
そ の 他	25	31	32	33	28
そ の 他	8	17	17	14	14
旅館・ホテル	7	25	20	14	7
運 輸	5	19	14	13	13
サ ー ビ ス	12	9	14	13	17



第112回

設 備 投 資

単位: %

		全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
20 / 4 / 6 月	実施した	38	45	11	27	42	45
	設備機械等の更新、維持	67	75	80	67	48	67
	生産・販売能力増強	36	27	0	42	52	41
	省力化、合理化、省エネ	20	23	40	33	13	13
	経営多角化	5	2	20	0	9	5
	新製品等の研究開発	2	4	0	0	0	3
	その他	5	4	0	0	4	8
20 / 7 / 9 月	実施予定	35	45	9	26	33	41
	設備機械等の更新、維持	71	75	75	73	56	74
	生産・販売能力増強	29	25	0	36	56	24
	省力化、合理化、省エネ	18	23	25	18	11	13
	新製品等の研究開発	4	10	0	0	0	0
	経営多角化	3	2	25	9	6	0
	その他	3	4	0	0	6	3

(注) 計数は構成割合、投資目的は複数回答

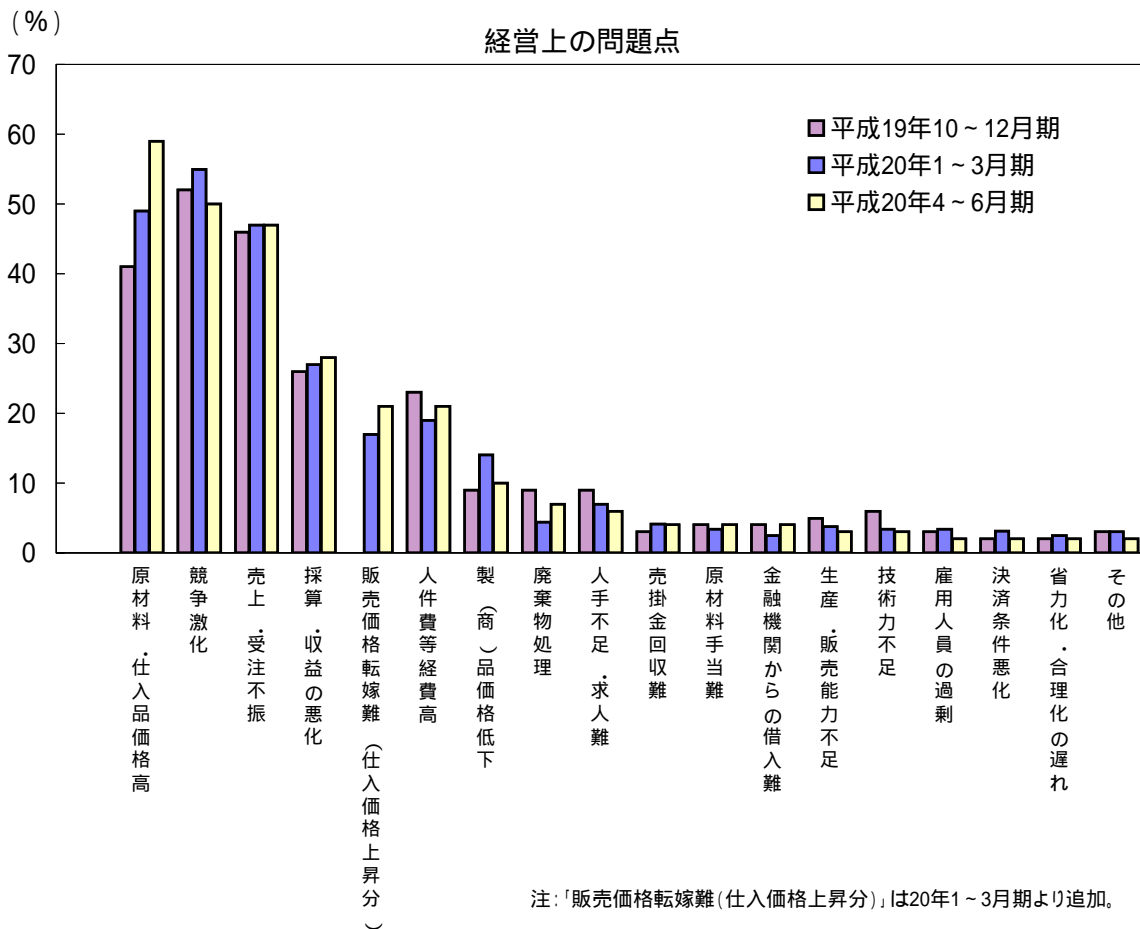
設備投資実施割合の推移

単位：%

月期			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10～12	月期	36	42	33	25	37	35
10年	1～3	"	31	36	17	17	31	44
	4～6	"	33	37	25	20	30	42
	7～9	"	30	37	18	17	32	34
	10～12	"	33	37	25	22	28	44
11年	1～3	"	28	32	27	22	18	38
	4～6	"	30	39	19	17	30	33
	7～9	"	31	35	17	29	31	34
	10～12	"	31	39	15	27	31	32
12年	1～3	"	32	40	17	26	28	37
	4～6	"	35	41	26	27	34	38
	7～9	"	36	39	20	43	30	45
	10～12	"	35	45	23	30	30	31
13年	1～3	"	33	40	24	28	22	41
	4～6	"	32	36	24	25	35	31
	7～9	"	34	37	20	33	31	42
	10～12	"	31	40	19	33	29	28
14年	1～3	"	28	30	19	31	27	31
	4～6	"	30	33	15	28	35	35
	7～9	"	33	42	22	28	35	30
	10～12	"	31	37	21	28	27	40
15年	1～3	"	30	40	18	28	24	31
	4～6	"	32	34	14	40	30	38
	7～9	"	33	38	21	30	29	37
	10～12	"	33	43	26	25	22	38
16年	1～3	"	31	45	7	28	30	30
	4～6	"	31	38	33	21	24	33
	7～9	"	35	43	12	24	33	50
	10～12	"	33	36	21	23	36	39
17年	1～3	"	31	35	15	30	24	41
	4～6	"	35	42	26	28	29	39
	7～9	"	39	44	19	35	40	46
	10～12	"	48	59	27	50	39	55
18年	1～3	"	39	48	16	39	40	42
	4～6	"	35	45	15	28	33	40
	7～9	"	34	43	11	27	35	41
	10～12	"	44	50	28	35	44	50
19年	1～3	"	43	50	30	42	41	43
	4～6	"	36	48	20	31	28	40
	7～9	"	42	46	24	38	40	49
	10～12	"	44	58	25	24	42	48
20年	1～3	"	40	50	14	37	38	44
	4～6	"	38	45	11	27	42	45
	7～9	月期見通し	35	45	9	26	33	41

	全産業		製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
		構成比					
原材料・仕入品価格高	59	21.5	76	76	49	47	40
競争激化	50	18.2	29	69	54	65	54
売上・受注不振	47	17.1	34	87	44	54	40
採算・収益の悪化	28	10.2	21	47	23	39	21
販売価格転嫁難(仕入価格上昇分)	21	7.6	27	16	21	21	15
人件費等経費高	21	7.6	14	16	26	26	26
製(商)品価格低下	10	3.6	11	18	14	7	3
廃棄物処理	7	2.5	10	9	5	2	6
人手不足・求人難	6	2.2	3	4	0	9	12
売掛金回収難	4	1.5	3	0	14	4	2
原材料手当難	4	1.5	10	0	5	0	0
金融機関からの借入難	4	1.5	5	2	2	7	3
生産・販売能力不足	3	1.1	3	0	2	11	1
技術力不足	3	1.1	4	9	0	0	3
雇用人員の過剰	2	0.7	0	7	2	2	3
決済条件悪化	2	0.7	3	2	5	2	1
省力化・合理化の遅れ	2	0.7	4	0	2	2	1
その他	2	0.7	1	0	2	0	7
回答企業数	342		108	45	43	57	89

(注) 複数回答につき計算は $\frac{\text{該当項目の回答数}}{\text{回答企業数}} \times 100$



平成20年夏のボーナス支給計画（社数構成比）

単位：%

		全産業	前年	製造業	前年	建設業	前年	卸売業	前年	小売業	前年	その他産業	前年	
支給の有無	支給する	84	81	84	89	71	58	91	83	88	85	83	81	
	時期	6月	19	19	27	24	13	11	17	8	13	16	19	21
		7月	52	56	56	58	42	54	54	66	50	52	52	52
		8月	29	25	17	18	45	35	29	26	37	32	29	27
	支給率	月給支給額の1か月分以下	27	17	21	15	50	25	18	9	27	20	28	18
		"1か月分超～1.5か月分以下	35	41	30	37	39	41	43	57	43	28	32	46
		"1.5か月分超～2か月分以下	23	24	30	24	12	17	21	25	16	35	24	20
		"2か月分超	15	18	19	24	0	17	18	9	14	17	16	16
	今夏は支給しない	5	3	7	2	4	4	0	5	0	0	10	3	
	未定	11	16	9	9	25	38	9	12	12	15	7	16	
一人当たりの支給額	増える	19	22	20	28	3	16	20	14	16	28	24	16	
	増加率	1%未満	10	9	11	12	0	0	0	0	0	17	17	0
		1～3%未満	53	47	37	44	0	20	63	80	86	42	55	60
		3～5%未満	15	14	26	16	0	0	12	20	0	8	11	20
		5～10%未満	11	19	21	24	100	0	0	0	0	33	6	10
		10%以上	11	11	5	4	0	80	25	0	14	0	11	10
	要因	社員の意欲向上	61	50	50	41	0	60	100	33	75	55	54	71
		業績が向上	41	40	63	45	100	40	17	67	13	27	39	29
		同業他社と比較して低い	0	2	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0
		その他	14	19	13	18	0	40	17	0	13	18	15	14
	前年並み	54	58	58	48	61	53	51	74	43	44	57	74	
	減る	27	20	22	24	36	31	29	12	41	28	19	10	
	減少率	1%未満	3	9	0	10	11	0	8	25	0	9	0	17
		1～3%未満	18	17	24	17	11	22	8	0	22	18	17	17
		3～5%未満	16	17	0	0	11	33	25	0	11	37	41	17
		5～10%未満	23	15	35	17	22	0	25	25	17	18	17	17
		10%以上	40	42	41	56	45	45	34	50	50	18	25	32
要因	業績が悪化	81	78	95	85	73	90	67	75	84	73	70	50	
	経営体質強化に向けた人件費圧縮	28	27	5	20	36	30	42	50	37	27	30	33	
	給与と賞与の配分見直し	7	16	0	15	18	10	8	0	5	36	10	0	
	同業他社に比較して高い	7	6	10	5	0	0	0	0	11	9	10	17	
	社員平均年齢低下	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	10	17	
	その他	1	4	5	5	0	0	0	25	0	0	0	0	

注) 計数は構成割合。一人当たりの支給額の増加要因と減少要因は複数回答。

NHK大河ドラマ「篤姫」の影響について

単位：%

		全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業	
影響の有無	プラス	2	2	0	2	2	4	
	ややプラス	13	10	0	20	14	19	
	なし	85	88	100	78	84	76	
	ややマイナス	0	0	0	0	0	1	
	マイナス	0	0	0	0	0	0	
影響の内容	プラス	売上	60	54	0	67	63	60
		広告宣伝	26	31	0	11	25	30
		新商品やサービス開発	22	62	0	11	13	5
		従業員の士気	4	0	0	11	0	5
		取引条件	0	0	0	0	0	0
		その他	12	15	0	22	13	5
	マイナス	売上	100	0	0	0	0	100
		広告宣伝	0	0	0	0	0	0
		取引条件	0	0	0	0	0	0
		新商品やサービス開発	0	0	0	0	0	0
		従業員の士気	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0
対策	実施した		14	11	0	18	16	20
		販促の強化	56	46	0	33	67	67
		新商品やサービスの投入	44	73	0	33	44	27
		社員教育の強化	15	0	0	33	0	27
		設備投資	5	0	0	0	11	7
		営業拠点の増強	2	0	0	0	0	7
		その他	7	0	0	0	11	13
	実施しない	85	87	100	82	82	79	
	これから実施予定	1	2	0	0	2	1	

注) 篤姫の影響内容および対策内容は複数回答。

最近の業況に関する主な意見

業 種		最近の業況
製造業	焼酎	商品(焼酎)の銘柄格差が生じている。
		終わりの見えない原油高の影響で、あらゆる面でのコスト上昇が心配
		県外出荷は計画通りだが、県内は昨年の価格改定以降荷動きが徐々に悪化している。飲酒運転の罰則強化等で、業務用を含め減少していると思われる。
	飼料	飼料原料が高騰しており、補償の制度が業界としてあるものの、生産者への影響が懸念される。
		飼料原料が高騰しており、補償の制度が業界としてあるものの、生産者への影響が懸念される。
	かつお節	原材料(生、節)の高騰ペースに製品の価格転嫁が追いつかず、収益が大幅に悪化。
	水産加工	世界中魚の奪い合いで、原材料価格が異常なまでに高騰しているが、製品価格競争が続いている。
	菓子	原料・資材の値上げに、コスト削減では追いつかなくなってきた。ここ1~3年は閉塞状態が続くと思う。
	味噌・醤油	原材料の調達が今後難しくなる。
	大島紬	割賦販売に対する与信限度額の引上げ規制の強化により、ローン販売を主とする呉服和装業界の打撃は、想像以上に大きい。
	紙・パルプ	原油高騰等により、ダンボール製品の補助材料の値上げが相次ぎ、主原料の原紙が10月より、3年連続値上げ予定。上期は現状維持でも、下期は製品価格への転嫁を余儀なくされる見込み。
	窯業・土石	建設業界は、建築確認申請の厳格化による着工遅れ、公共工事予算の削減等により厳しい環境である。4~6月にかけて建設業の大型倒産が相次ぎ、景気の減退が深刻。
	機械・金属	受注がかなり悪化している。倒産等も増加しており、影響が心配。
		機械加工製造業関連の受注は多少あるが、金額交渉は厳しい。今後、更なるコスト削減が必要。
	電機・電子	親会社のコストダウン強化で、雇用面でも派遣会社を中心となり、地元との繋がりが希薄になっている。
		競争激化で、請負子会社は更なるコストダウンを要求され、親会社との格差はますます拡大。
スポーツ用品	取引先の海外進出が続いており、国内生産は減少傾向にある。	
印刷	原材料の紙の単価が約30%、インキが10%アップ。他にガス・ガソリン等のアップで、利益を圧迫。	
	印刷物受注減少に加え、6月から用紙価格が15%以上上昇するも、製品への価格転嫁は難しい。	
建設業	建築	建設業にとっては、これまで以上に厳しい環境。土木・建築・住宅いずれも明るい材料がない。
		昨年9月頃より工事受注件数が低調な中、ガソリン、建築資材価格も上昇。しかし、同業者間の価格競争は一段と熾烈さを増し先行きが非常に不安。
		鋼材の高騰、確認申請の長期化、競争の激化、公共工事発注量の減少などが響き、建設業にとっては非常にきびしい環境。
卸売業	海産	原油高騰により、ほとんどの仕入原料・資材が値上げだが、販売単価の値上げ交渉は難しい。
		原料高の製品安。長期間続くと業者存続にも影響が出る。現在その前兆があるように感じる。
	建材	公共事業削減に伴い建設業界を取り巻く環境は日を追う毎に厳しさを増す。また、昨今の原油、材料等の値上がりで影響はより深刻。 タイヤの需要が前年よりダウンし、収益が悪化。原油高騰で原価は上昇したが、販売価格に転嫁できず。

業 種		最近の業況
小売業	百貨店・スーパー	物価やガソリンの値上げ等で車の運転を控える人が増加。また、Co2問題で自転車が見直されているが、中央地区での駐輪締め出しには疑問を感じる。
		個人、法人とも購買意欲が大きく落ち込み、特に婦人服、紳士服等で顕著。
		景気サイクル上の問題か、原油高騰が主因なのか、全体的に消費の冷え込みを痛感。
		商環境の変化、消費者の消費動向の変化等に対応できていない状況。
	自動車	ガソリン価格アップはユーザーの買い控えや今後の経営に繋がる。
	石油・ガス	原油価格の急騰により、仕入値上げが続くも、競争激化で転嫁値上げが困難。
		原油高騰を売値に完全に転嫁できず、売上・粗利益減少で先行きが不安。
昨年10月よりマージン低下し、零細事業者としては非常にきびしい。		
建設資材	建設土木公共工事低迷が継続しているが、液晶・IC等も昨年10月～今年3月頃まで低迷していたが、6月頃より太陽光発電に関する色々な設備投資の受注引き合いが急速に増加してきた。	
建設機械	仕入価格、原材料、燃料費等の上昇は続くと思われるが、販売価格への転嫁がきびしく、収益は更に悪化すると思われる。いかに人材を確保して乗り切るかが重要。	
外食	原油高・食材等の原材料値上げにより、企業収益を圧迫してきているが、家計の消費マインドも冷え込んできている。	
その他産業	旅館・ホテル	重油の値上げは重油そのもの以外に食品、クリーニング代等各部門の原価に影響している。
		新幹線全線開通に向けホテル業界も競争が激化。駅前がもっと飲食等充実し、活気付いてほしい。
	運輸・通信	原油高の為、大きな影響を受けている。
		原油高騰が経営を厳しくさせており、今後の大きな不安材料である。また、消費低迷、景気後退の中、物量が低減しており、競争も激化している。
		原油高により顧客と交渉できる環境となり、価格交渉を秋より積極化できる。
	設計・デザイン	建設業関連業種だけに苦しい状況が続いている。リストラ等に力を入れたい。
	情報	県内の景気が悪くなっている様に感じます。
	建物管理	地方財政の厳しさによる入札単価の低下や消費者金融の経営環境悪化による契約解約等に加え、ガソリン高騰、人件費上昇、福利厚生費の会社負担増などが重なっている。
	クリーニング	重油、ガソリン等の値上がりは、社内のコスト削減では対応できず、近々、価格転嫁する予定。
	美容院	人件費やコスト高によって利益が確保しにくい。今後は経費にあう売上増加のために、設備投資を含め社員教育を向上させ利益を出すことに力を入れている。
	商社	建設業の倒産が目立つ。
	観光	原油の高騰に伴う諸物価の値上げが、売上及び仕入面で大きく影響し、相対的に業況悪化を招いている。
	広告	本年4月以降、広告業界の状況は急激に悪化している。焼酎業界は原油高による原材料費高騰で、宣伝広告費の削減。外食産業もガソリン高により家族での来店が減少。各放送局の広告収入も対前年マイナスが続く。県下新聞、TV、ラジオ各社とも第一四半期売上が前年比90%前後なのは過去30年1度もない状況。印刷・イベント会社はもっと悪く、今回は先の見通しが立たない不況。。
農林水産	燃油高騰の影響が大きい。燃油対策及び補助等の国、県よりの援助が必要。	
	魚価低迷、漁獲不振(規制)、原油高騰による燃料費上昇で三重苦。	